

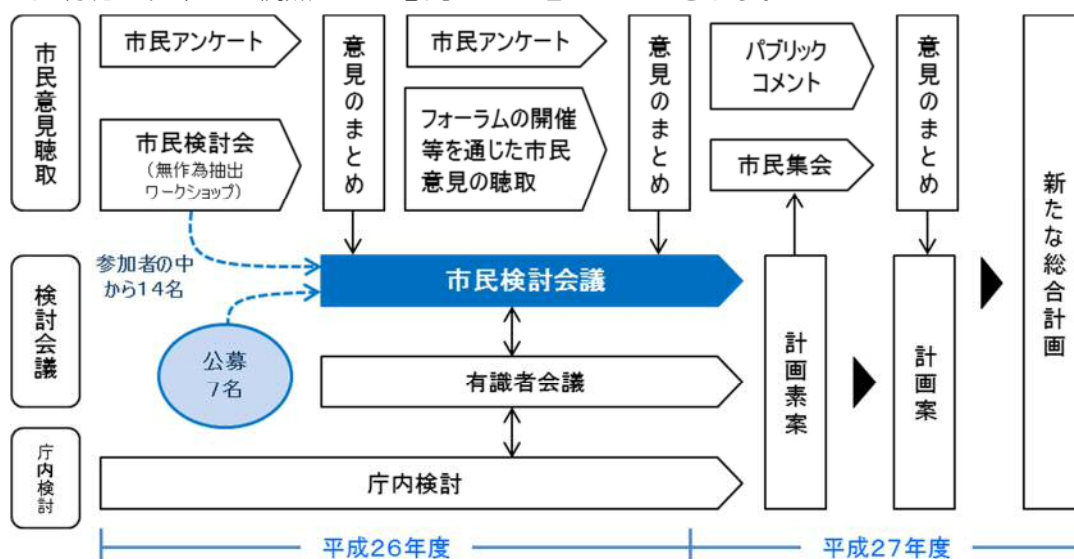
川崎市総合計画市民検討会議

第3部会 開催結果

日時:平成27年2月8日(日)9:30~12:30
会場:多摩区役所 11階会議室

1. 「川崎市総合計画市民検討会議」について

- ◇ これからの川崎の目指すべき方向性や取組を明らかにする「新たな総合計画」の策定にあたり、市民の視点での意見や助言をいただく場として、「川崎市総合計画市民検討会議」をスタートしました。
- ◇ 「市民検討会議」では、部会による議論を行うほか、全体会で意識の共有化や意見の集約を図るとともに、別途設置する「川崎市総合計画有識者会議」と検討内容を共有化し、市民の視点からの意見として活かしていきます。



2. スケジュール

- | | |
|-----------------|------------------------------|
| 平成26年10月4日(開催済) | 第1回全体会 |
| 11月1日(開催済) | 第1部会(社会福祉(介護、健康)) |
| 12月21日(開催済) | 第2部会(子育て、教育) |
| 平成27年1月25日(開催済) | 第2回全体会(第1、第2部会の共有と防災・コミュニティ) |
| 2月8日 | 第3部会(暮らし、交通) |
| 3月1日 | 第3回全体会(第3部会の共有など) |

3. 会議の構成

- ◇ 会議は下記のとおり、市民21名とコーディネーター(学識経験者)1名の計22名で構成されています。

公募市民	7名
無作為抽出した市民による「川崎の未来を考える市民検討会」参加者	14名
コーディネーター(中央大学法学部教授・川崎市在住 磯崎初仁氏)	1名

※20代~70代の市民。各区概ね均等な人数で、男性11名・女性10名(コーディネーターを除く)

- ◇ 第3部会（暮らし、交通）については、下記のとおり市民委員14名が2グループに分かれてディスカッションを行いました。

1グループ (7名)	小山了委員、馬場直子委員、加藤英雄委員、辻麻里子委員、岡田義一委員、後本直子委員、片山利昭委員
2グループ (7名)	荻原進委員、松本玲子委員、青柳昇二委員、山下千裕委員、川島弘一委員、飯田真委員、長野敏幸委員

4. 第3部会の開催結果

(1) コーディネーターあいさつ

- ◇ 会議の総合調整を担っていただく中央大学の磯崎教授からは以下のようなお話をいただきました。
 - これまでの部会では「ヒューマン・サービス」、「ソフト」がテーマであったが、今回は「ハード」がテーマとなる。専門的な内容も多いと思うが、日頃生活していて感じることなどをぜひディスカッションしていただきたい。



コーディネーターの
磯崎初仁中央大学教授

(2) 全体討議

- ◇ 「都市構造・交通体系」について、市の状況や取組について市から説明を行い、質疑応答を行いました。主なやり取りは以下の通りです。
 - ◇ 過去に計画され、整備が進んでいない道路がかなりある。計画の見直しはしないのか。
 - 古いものでは、昭和21年に戦災復興による都市計画決定がなされた道路もあるが、首都圏及び本市のネットワークとしての必要性の視点から平成20年に見直しを行っている。計画に基づき、道路整備プログラムを示して整備を進めている。
 - ◇ 地下鉄の計画はどうなっているのか。
 - 30%の事業費削減の観点から検討委員会での検討が行われたが、削減目標には至らず26%に留まり、今後の新技術の動向を見定めるとしていることから、具体的な事業時期は未定となっている。
 - ◇ 小杉駅周辺の基盤整備と開発の状況や、駅の安全対策等はどうなっているのか。
 - 拠点としての特性を踏まえ、民間開発を誘導しながら基盤整備を進めている。利用者増に伴う駅の安全対策など、行政だけでは対応できないものについては、事業者と連携しながら進めていくことになる。



- ◇ 小学生の登下校時は地元住民が安全のための見回りを行っている。新たな開発エリア等でそのような対応をどのように考えているのか。
→民間開発の情報が得られた時点で教育部門に情報提供を行うなどの対応を行っており、エリアマネジメントの取組等も行われているが、コミュニティ形成に向けて地域の方々と連携した取組が一層必要になると考えている。

(3) グループディスカッション

- ◇ 2つのグループに分かれて、「超高齢社会に向けた地域交通のあるべき姿とは」、「少子高齢社会における地域居住のあるべき姿とは」の2つをテーマに、グループディスカッションを行いました。



①市の職員から市の状況について説明



②みんなで意見を出し合います



③意見を模造紙にまとめていきます

- ◇ 主な意見としては、以下のようなものがありました。

➤ テーマ1「超高齢社会に向けた地域交通のあるべき姿とは」

グループ1

- ◇ 北部はマイカーが多く平坦地は自転車がが多いという地域特性を踏まえ、必要な都市基盤を整備するとともに、ルールやマナーを市民が率先して理解し、遵守することが必要。
- ◇ マナーやルールは子どもが守っても大人が守っていない。講習会等は小学校では行われているが、中学、高校では実施率が低いことから、中高生への講習を強化することが重要。また、家庭や地域でルール、マナーの遵守意識を高めることも重要。
- ◇ 健康増進の視点から歩くことの重要性を意識し、地域ぐるみで歩く活動を推進するとともに、行政は、歩きやすい環境づくりに取り組む必要がある。また企業は、徒歩通勤者に対する金銭的支援を行うなどウォーキングを推奨するべき。
- ◇ 海外では地域が主体となりマイカーを使った相乗り活動などがなされている。日本では法制限があるため難しいが検討する必要がある。
- ◇ 自転車がどこを走行するべきかを理解していないドライバーも多い。自転車レーンの整備には時間がかかるので、短時間・低コストで周知が可能な路上への青色ペイントをどんどん整備すべき。
- ◇ 昼間時間は、高齢者利用が増加することから、乗換えをフリーにしたり、バス結節点を高齢者が多く集まる大型病院に変えるデマンド化など、既存の路線バスを



活用した取組を推進するべき。

- ◇ 駅前などにある遊休地や低未利用地を所有者と連携して、買物用短時間駐輪場やカーシェアリング拠点にするなど時間帯単位で地域ニーズに合わせた活用を行うべき。

グループ2

- ◇ 自転車については、特に高齢者や子育て世帯（2人・3人乗り、電動自転車）、若者への講習を地域で実施するなど、普及啓発によって自転車マナー・意識向上を図ることが重要。
- ◇ 歩道・車道・自転車道を区分けするなど、誰もが安全に移動できる自転車の利用環境整備が必要。
- ◇ コミュニティ交通については、収益性なども考えながら最適な手段を選んで活性化すべきだが、隣接自治体との連携や乗合タクシー、企業協賛、ショッピングバス車両のシェア等、幅広く検討するべき。
- ◇ 特に路線バスの利便性向上については、高低差に配慮しながら、より使いやすくするべき。
- ◇ 道路整備については、市民の安全と利便性が向上するプライオリティの高いものから進めるべき。事業実施にあたっては、幹線道路の立体化や一般道路の自転車道の区分け、歩行者、自転車、車両の移動導線の分離など、抜本的な対策についても検討するべき。



➤ テーマ2「少子高齢社会における地域居住のあるべき姿とは」

グループ1

- ◇ 高齢者の一人暮らしや孤立をなるべく防ぐため、地域で見守るゆるやかなネットワークをつくるべき。
- ◇ 高齢者と若者によるシェアハウス（下宿）や保育園等といこいの家等を複合的に合築することで、多世代交流・多世代居住を推進する。
- ◇ ミスマッチの改善に向け、既存団地のリノベーションやバリアフリー化により、高齢者の住み替えを推進すべき。
- ◇ 今後の超高齢社会を見据え、定住意向が高まるとともに、多くの税金を納めてくれることが想定される子育て世帯を呼び込み、定住化させる取組が必要。
- ◇ 親子や親戚が同居、近居するためのリフォーム資金の支援する取組が必要。
- ◇ セーフティネットとして、高齢者等の低所得者が住み続けられる住宅施設やグループホームも重要性が高まる。
- ◇ 公園等の人が集まる施設を多機能化するとともに地域の自主管理とすべき。
- ◇ 小杉駅周辺などのまちづくりでは、人口や商業施設が増えるなど魅力が高まって

いることから、このような取組を続けていくことが重要

グループ2

- ◇ 公共施設を整備する場合は、保育・学童・高齢者施設をミックスした、多世代が交流できる場づくりが重要。
- ◇ 人口が増加している現状への対応だけでなく、20年後、30年度を意識し、施設の「転用」を前提に、成長期から成熟期までを計画段階から意識して整備することが重要。
- ◇ ライフステージに合わせた住み替えができるよう、民間と連携し、賃貸住宅も活用しながら居住の流動性を高めることが重要で、その際、例えば「等価交換」によって川崎市内で住み替えができるような公共による仕組みづくりが重要。
- ◇ 医療サービスを充実させ、商業・文化・コミュニケーションの場が充実していることを活かすなど、川崎市に住み続けたいくなる魅力づくりを進めるべき。

(3) 成果の発表、シール投票、コーディネーターまとめ

- ◇ 各グループから成果発表を行った後、シール投票を行いました。



グループによる発表



グループ発表後のシール投票

- ◇ 最後に、コーディネーターの磯崎教授から、2つのテーマでの話し合いの内容を、キーワードで総括していただきました。
- **「マナー」「意識向上」**
…自転車利用を始めとして、自助及び共助、更に公助においても重要な概念として出てきた。これは様々なことにつながるもので、セーフティーネットや安全にも関わりがあるキーワードである。
- **「シェア」「交換」**
…住宅だけでなく施設や公園を始めとした場所のシェア、更にカーシェアリングといった「シェア」というキーワードと、住まいの等価交換といった「交換」というキーワードが出てきた。税金を使って何かやるのではなく、ニーズが同じものは「シ

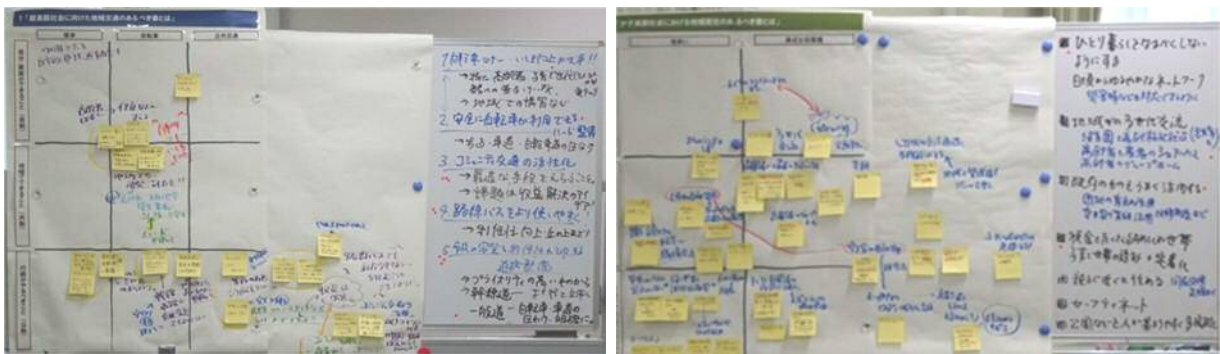
ェア」し、異なるものは「交換」というように、両者はつながる概念である。

➤ 「長期展望」「ライフステージ」

…20年後、30年後を意識したまちづくりが重要である。都市構造や交通体系のみならず、例えば公共施設の計画においても、人口が増加している今だけを考えるのではなく、将来高齢者が増えたときに施設を転用するなど、長期展望を意識すべきである。また住まいも長期的に捉えると、ライフステージに合わせた住み替えということが重要になる。

➤ 「プライオリティ」

…今回のテーマは全般的に公助に対する意見が多かったが、財政状況が厳しい中であり、プライオリティ（優先順位）をつけることが不可欠となる。



グループのまとめ

→ 本部会の成果は、第3回全体会に報告し、市民検討会議全体で共有し、話し合いに反映させます。